

令和4年度

教育委員会活動の点検・評価報告書

令和4年11月

鹿児島市教育委員会

目 次

I	はじめに	
1	制度の趣旨	1
2	点検・評価の対象	1
3	評価の流れ	2
4	教育行政評価会議	2
II	点検・評価結果	
1	二次評価（最終評価）結果一覧	3
2	事業評価	
	・ ロジックモデルの見方	4
	・ 個別事業評価	5
III	第二次鹿児島市教育振興基本計画	
	・ 成果指標の実施状況	9
IV	参考資料	
	・ 教育委員会活動の自己点検・評価実施要綱	23
	・ 教育行政評価会議設置要領	24

I はじめに

1 制度の趣旨

教育委員会は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていくため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、毎年、権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

本市教育委員会では、法の趣旨を踏まえ、所管する事務について「教育委員会活動の点検・評価」（以下「点検・評価」という。）を実施しています。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

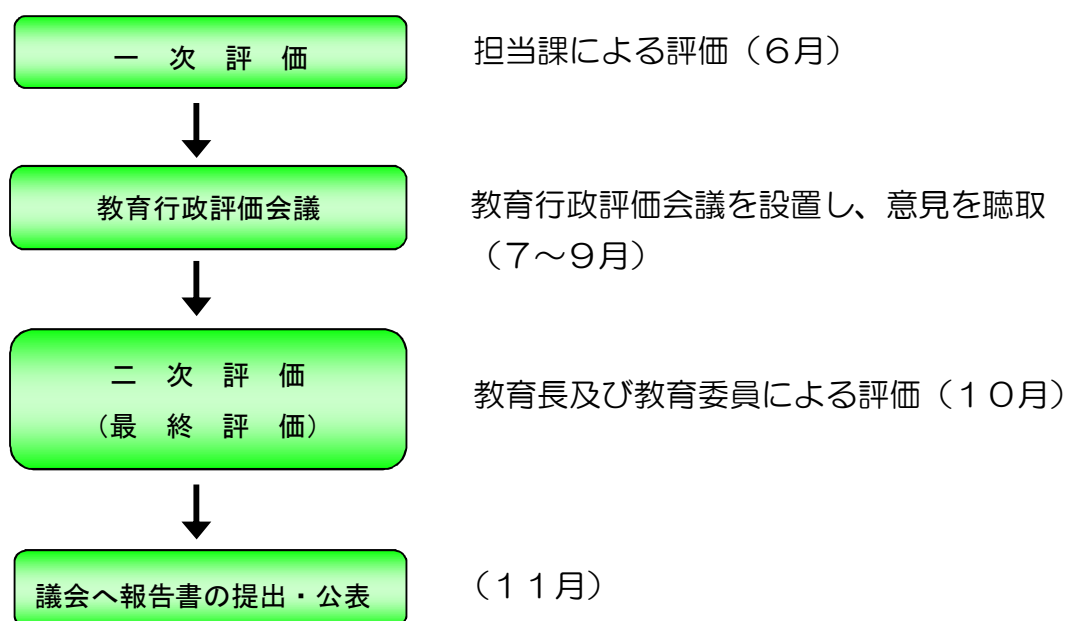
第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

今年度は、EBPM（データに基づく政策立案）の考え方を取り入れ、ロジックモデル（政策の目的達成までの論理的つながりを示すもの）により因果関係を明示するなど、事業の成果をより見える化し、事業の見直しを進めました。対象事業については、第二次教育振興基本計画（計画期間：令和8年度まで）に掲げる関連事業のうち、見直しが必要と思われる事業を選定し、評価を実施するとともに、全施策に設定している成果指標について、令和3年度の実施状況の点検を行いました。

3 評価の流れ



4 教育行政評価会議

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき「教育行政評価会議」を設置し、見直しが見込まれる4事業について、意見聴取を行いました。

〔委員名簿〕

（敬称略）

氏 名	所 属 等
高谷 哲也	鹿児島大学教育学部准教授
帖佐 尚人	鹿児島国際大学福祉社会学部准教授
下假屋 誠	市小学校長会（山下小学校長）
脇野 真梨江	（株）Climbest 代表
南 香織	市PTA連合会会長

Ⅱ 点検・評価結果

1 二次評価（最終評価）結果一覧

No.	事業名	担当課	評価結果
1	旧島津氏玉里邸庭園管理運営事業	文化財課	B：見直し
2	「こころの言の葉」コンクール事業	学校教育課	B：見直し
3	女性リーダー養成事業	生涯学習課	C：統合
4	社会教育関係団体指導者等育成事業	生涯学習課	A：継続

A 継続	引き続き改善・工夫に努めながら継続する
B 見直し	事業の実施方法等を見直す必要がある
C 統合	事業の統合を検討すべき
D 縮小	事業規模を縮小する必要がある
E 休止	制度は必要だが、事業を休止すべき
F 廃止	制度自体を廃止すべき
G 終了	事業の終期に合わせて、終了すべき

ロジックモデルの見方

【事業概要】

〇〇〇〇〇〇〇〇

(本市教育施策の方向性：〇〇〇〇 / 施策名：〇〇〇〇)

【事業評価】⇒ A：継続

所管課の自己評価

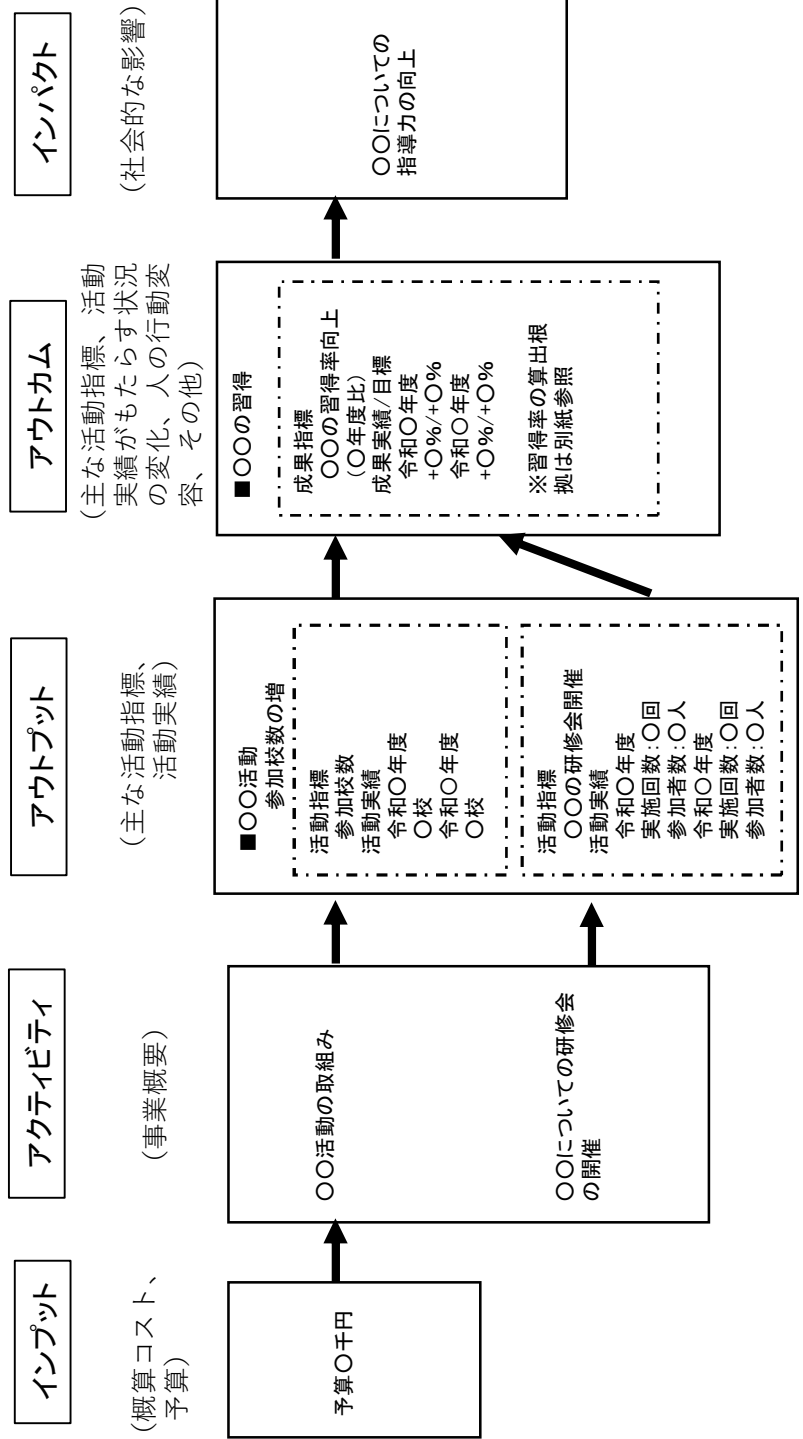
・〇〇〇〇

教育行政評価会議の主な意見

・〇〇〇〇

二次評価の主な意見

・〇〇〇〇



1 旧島津氏玉里邸庭園管理運営事業

【事業概要】

国指定名勝である、旧島津氏玉里邸庭園の維持管理および一般への公開を行う。

(本市教育施策の方向性：(6) 文化芸術の振興と歴史・文化資源の保存と活用 / 施策名：③ 文化財の保存の充実と積極的な活用)

【事業評価】⇒B：見直し

所管課の自己評価

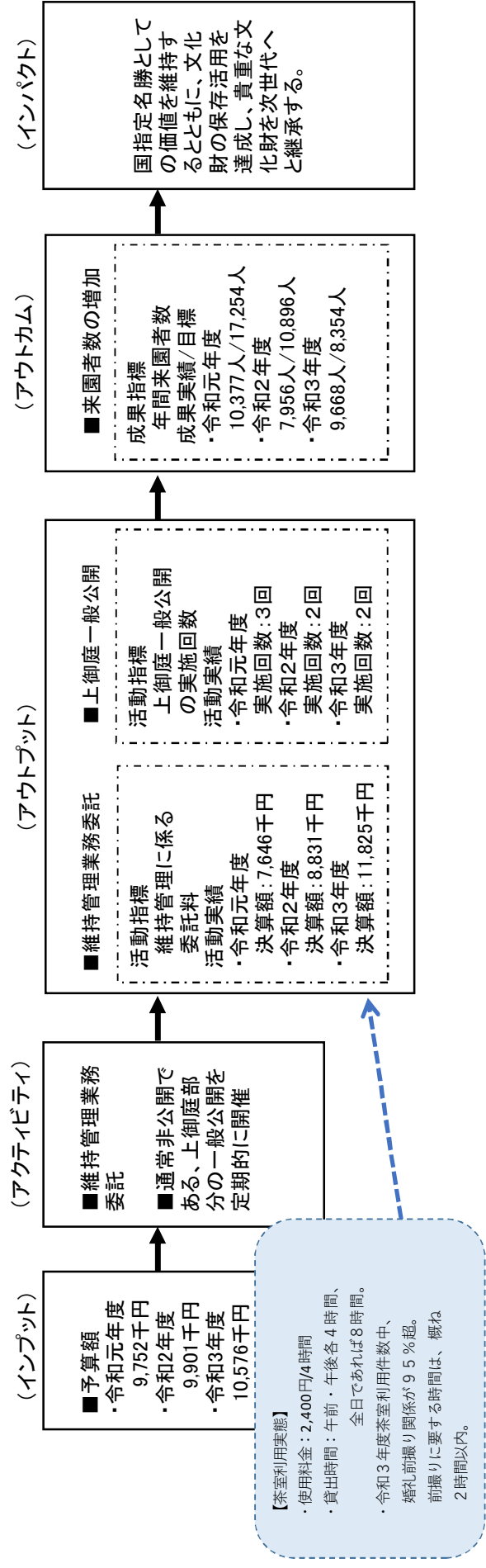
・茶室の利用実態に基づき、貸出時間を短縮し貸出枠を増やすなど、より魅力ある庭園利用環境の提供を実現できるようにする。また、園路陥没や木の食害など損傷が各所に発生しており、名勝庭園としての価値の維持に苦慮しているため、収入について検討する。

教育行政評価会議の主な意見

- ・茶室については、現在の利用実態等の関係から時間設定や使用料を見直すことは妥当であり、利用しやすい時間単位へ短縮することで、一層の利用者獲得につながるものと思われる。
- ・また、ホームページ等を更に活用し、施設の利用方法や魅力をわかりやすく伝えるなど、多くの人が利用しやすい環境づくりも必要である。
- ・茶室使用料以外の収入については、地域住民の利用等を踏まえ慎重に検討する必要があるが、任意の協力を募るなどの手法を含め、維持管理費の一助となるよう、財源確保にも意を用いる必要がある。

二次評価の主な意見

- ・茶室の使用料、貸出時間は、利用実態やニーズを踏まえ、営利目的での使用料に差をつけるなどの見直しの方向でよい。
- ・社会教育施設として市民に茶室として利用してもらおうことが本来の目的であるので、そのための周知をより一層行う必要がある。



2 「こころの言の葉」コンクール事業

【事業概要】

中学生と保護者が、相手の存在意義と自分の在り方・生き方を考える契機とするため、葉書1枚程度のメッセージを作成し、親子の交流を図る。

(本市教育施策の方向性：(1)心を育む教育と青少年教育の推進 / 施策名：①道徳教育の充実)

【事業評価】⇒B：見直し

所管課の自己評価

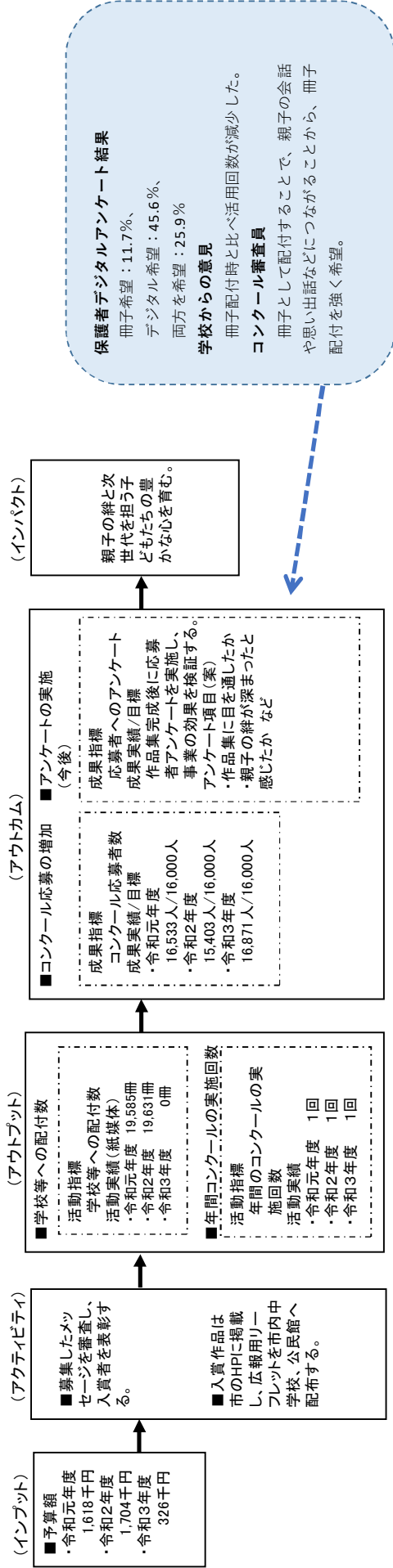
- ・次世代を担う子供たちに豊かな心を育むことは必要であり、学校、保護者、市民からも評価されている。R3は予算の制約もあり、作品集のデータ配付を行ったが、紙での配付を望む学校や市民の声もあることから、冊子の配布先は見直しつつ、民間の協力等を視野に冊子の配付等を検討したい。

教育行政評価会議の主な意見

- ・本事業は、思春期の子供と親にとって、自身を見つめ直す良い機会になっている意義のある事業であるため、市民にしっかり説明を行えるよう、現状の把握と、それに基づいた評価が必要である。
- ・事業の継続に向け、デジタル版の活用を通して、家庭内での親子交流やデジタルリテラシーの育成に努めるとともに、審査のオンライン投票など、積極的なデジタルツールの活用を図る必要がある。
- ・一方、子どもたちが冊子をすぐ手に取れる教育環境は望ましいことであり、冊子配布がないことで、本事業の認知度の低下が進む恐れもあることから、民間の協力などにより、一定程度の製本化も検討してほしい。

二次評価の主な意見

- ・民間の協力を得て製本化に取り組むとのことであるが、デジタルツールにはない、冊子に直接触れ合うことの良さや、教育施策の方向性である「心を育む教育と青少年教育の推進」に意義深い事業であることを訴え、市費での予算確保に努めてもらいたい。
- ・意義が認められるよう学校現場でもより一層取り組んでもらいたい。



3 女性リーダー養成事業

【事業概要】

女性教育における学習機会の充実を図るとともに、リーダーの発掘・養成及び女性の組織活動の活性化を図ることにより女性団体の活動を支援する。

(本市教育施策の方向性：(5) 家庭や地域の教育力の向上と生涯学習環境の充実 / 施策名：④ 生涯学習推進体制の充実)

【事業評価】⇒C：統合（「4 社会教育関係団体指導者等育成事業」へ統合）

所管課の自己評価

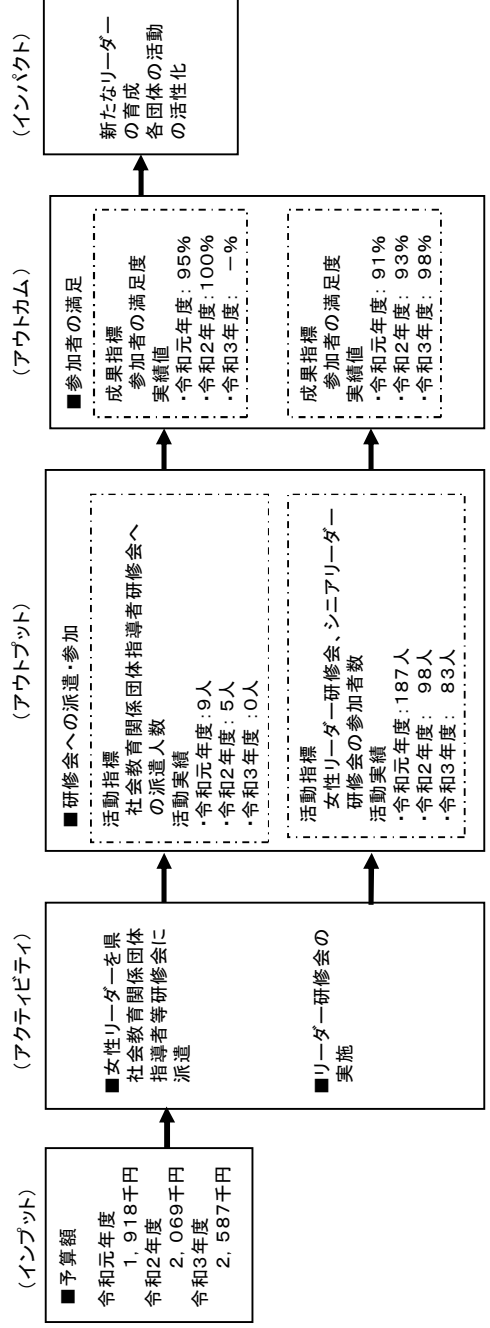
・女性に特化することなく、各社会教育関係団体や地域における新たなリーダーの育成を図る必要があり、世代間の交流の場の拡充やネットワークづくりをするために社会教育関係団体指導者等育成事業と統合し、更に発展・充実させる。

教育行政評価会議の主な意見

- ・社会教育関係団体指導者等育成事業と統合することにより、女性や若者に特化することなく、人生100年時代における幅広い世代を対象とした新たなリーダー育成の視点に立ち、地域のリーダーの育成や資質向上につながる取組を行う必要がある。
- ・一方、事業の統合により、研修会の増加など、負担感が増すことで、参加者の減少にもつながりかねないため、世代ごとのニーズを把握し、より参加しやすい環境を整え、地域活動が停滞・断絶しないような支援を進める必要がある。

二次評価の主な意見

- ・行政が率先して女性に限定した事業を性別に関わらない事業に見直すことは意義深いことである。
- ・一方で、地域の中で女性の地位向上や経験を積むことが難しいという実態もあるため、統合により女性の参加が減少しないように配慮するとともに、性別等に関わらず、自ら考え行動できる地域のリーダーとしての経験が積めるような研修内容に見直していただきたい。
- ・また、これまでの活動が縮小されることが無いよう、活動の重要性を根拠を持って説明し、引き続き予算を確保していただきたい。
- ・さらに、今後の生涯学習推進体制の在り方についてもあわせて検討していただきたい。



4 社会教育関係団体指導者等育成事業

【事業概要】

社会教育関係団体の組織拡充と活動充実を図るため、指導者を発掘し育成する。

(本市教育施策の方向性：(5) 家庭や地域の教育力の向上と生涯学習環境の充実 / 施策名：④ 生涯学習推進体制の充実)

【事業評価】⇒A：継続（「3女性リーダー養成事業」と統合して継続）

所管課の自己評価

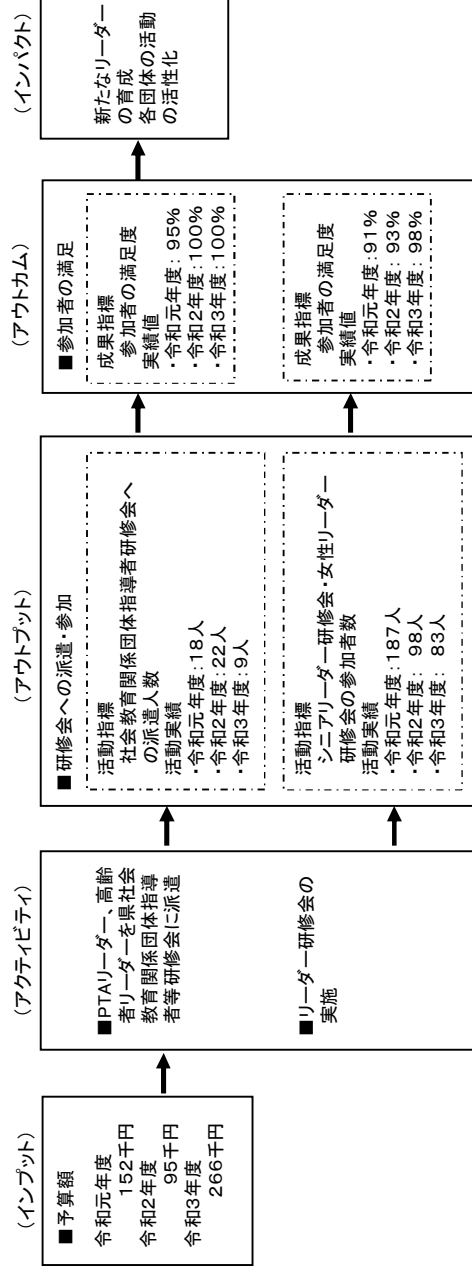
- ・女性や若者に特化しない幅広い世代を対象とした新たなリーダー育成の視点に立ち、各種社会教育関係団体や市民参加型のイベント等で活躍するリーダーなど、地域の教育力向上に貢献する人材を育成していくため必要な事業であることから、本事業へ女性リーダー養成事業を統合し、更に発展・充実させる。

教育行政評価会議の主な意見

- ・女性リーダー養成事業と統合することにより、女性や若者に特化することなく、人生100年時代における幅広い世代を対象とした新たなリーダー育成の視点に立ち、地域のリーダーの育成や資質向上につながる取組を行う必要がある。
- ・一方、事業の統合により、研修会の増加など、負担感が増すことで、参加者の減少にもつながりかねないため、世代ごとのニーズを把握し、より参加しやすい環境を整え、地域活動が停滞・断絶しないような支援を進める必要がある。

二次評価の主な意見

- ・行政が率先して女性に限定した事業を性別に関わらない事業に見直すことは意義深いことである。
- ・一方で、地域の中で女性の地位向上や経験を積むことが難しいという実態もあるため、統合により女性の参加が減少しないように配慮するとともに、性別等に関わらず、自ら考え行動できる地域のリーダーとしての経験が積めるような研修内容に見直していただきたい。
- ・また、これまでの活動が縮小されることが無いよう、活動の重要性を根拠を持って説明し、引き続き予算を確保していただきたい。
- ・さらに、今後の生涯学習推進体制の在り方についてもあわせて検討していただきたい。



Ⅲ 第二次鹿児島市教育振興基本計画・成果指標の実施状況

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等				
(1) 心を育む教育と青少年教育の推進					
①道徳教育の充実					
「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」と回答した児童生徒の割合の全国との比較	全国学力・学習状況調査 ※全国平均を100とした本市との差	小6 -4.0	-2.1	±0	学校教育課
		中3 -5.0	+0.8	±0	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】		【今後の方向性】			
学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒や地域の実態等に応じた指導計画の作成や道徳科の指導方法、評価について取り組み、研修会の推進を図った。 R3の進捗状況としては、小6については、目標値に向けて順調に推移している。中3については、目標値を達成した。		今後、児童生徒の道徳性をさらに高めていくために、全職員による授業研修を継続し、心に響く道徳教育の充実に取り組んでいく。			
道徳科の授業公開実施率	—	100%	100%	100%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】		【今後の方向性】			
市道徳教育研究会や県民週間において道徳科の授業公開等の推進を図り、R3は目標値を達成した。		児童生徒の道徳性を更に高めていくために、引き続き計画的に道徳研修に取り組み、指導方法の工夫・改善を行っていく。			
②人権教育の充実					
「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合の全国との比較	全国学力・学習状況調査 ※全国平均を100とした本市との差	小6 -0.6	-2.6	+1.3	学校教育課
		中3 +0.2	-2.9	+1.8	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】		【今後の方向性】			
「人権教育は全ての教育の基本」を合言葉に、教科等指導、生徒指導、学級経営など全教育活動を通じて、人権尊重の精神に立った学校づくりに努めた。 R3の進捗状況としては、コロナ禍により対面式の交流が十分できなかったことから、前年実績を下回った。		今後、全教育活動を通して人権尊重の高揚を図り、学びに向かう力や人間性を高めて行く等の非認知能力の育成に取り組んでいく。			
人権教育に関する校内研修の実施率	校内研修実施校÷小・中学校数	100%	100%	100%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】		【今後の方向性】			
人権教育研修会を1回実施し、授業を通じた人権教育の在り方、学校・家庭・地域が連携した人権教育の進め方等について理解を図り、R3は目標値を達成した。		今後、各学校における人権教育の実施状況を把握し、さらに各学校へ指導主事を派遣するなどして、教職員の人権意識の高揚と資質向上を図る。			
③いじめ防止対策をはじめとする生徒指導の充実					
生徒指導に関する研修会における参加者の満足度	研修会参加者へのアンケート調査	89.1%	73.9%	95.0%	青少年課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】		【今後の方向性】			
生徒指導の充実に事業において、4講座を実施し、市内小・中・高の教職員が合計160人参加し、支援体制の推進を図った。 R3の進捗状況としては、新型コロナウイルス感染症対策のため2回の研修が中止となったことや、感染対策で活発な意見交換などを控えたことなどにより、前年実績を下回った。		今後も、教職員への参加を広く呼びかけ研修に参加してもらい充実した研修となるよう内容の充実に努める。			
フレンドシップに通級する不登校児童生徒の学校復帰率	学校へ復帰できた児童生徒数÷フレンドシップに通級する児童生徒数	90.8%	85.1%	95.0%	青少年課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】		【今後の方向性】			
フレンドシップ事業において、学校への案内文の送付やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーからの紹介など、フレンドシップの周知に取り組み、フレンドシップ活用の推進を図った。 R3の進捗状況としては、学校へ復帰できた児童生徒数は例年より増えたが、それ以上に入級した児童生徒が増えたため、前年実績を下回った。		今後、ICTの活用や心のパートナーによる支援等の充実に努めるなど、引き続き児童生徒の社会的自立に向けた支援に取り組む。			

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等				
④ 青少年教育と体験活動の充実					
リーダー育成に関する研修後の子ども会活動やボランティア活動への意欲	参加児童生徒へのアンケート調査	81.3% (R元)	(54.2%) ジュニアリーダー 養成セミナーのみ の数値	85.0%	青少年課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】		【今後の方向性】			
<p>本項目は、「子ども会リーダー研修会」と「ボランティアジュニアリーダー養成セミナー」の平均を数値化している。</p> <p>R3は、新型コロナウイルス感染症の影響により、「子ども会リーダー研修会」は中止し、「ボランティアジュニアリーダー養成セミナー」のみ実施した。</p> <p>R3の進捗状況としては、新型コロナウイルス感染症への対応として、交流活動を控えるなど、内容の見直しを行って実施したことなどにより、前年実績を下回った。</p>		<p>コロナ禍の影響により、交流活動が実施できていないが、状況をふまえながらさらに内容の充実に取り組み、目標値に近付けたい。</p>			
創志塾同窓会の参加率	参加者数÷(現塾生+卒塾生)	29.4%	—	70.0%	少年自然の家
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】		【今後の方向性】			
<p>卒塾生の近況を把握するとともに、近況報告会や講師・ALTを交えた野外ゲームなどの内容でR4年3月13日に計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。</p>		<p>近況報告会や1期生から8期生までの交流会を令和5年3月12日に実施予定。今後、創志塾活動プログラムの中に、卒塾生による講話や交流を計画する。</p>			
⑤ 青少年を育む環境づくりの推進					
インターネット接続機器の利用に関する家庭内ルールの設定率	インターネット利用等に関する調査(保護者、児童生徒に3年おきに調査)	小 82.3% (児童生徒)	87.5% (保護者)	85.0%	青少年課
		中 68.7% (児童生徒)	84.6% (保護者)	75.0%	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】		【今後の方向性】			
<p>市内の全学校に対して、PTAや家庭教育学級等で家庭内ルールの設定率向上に向けた啓発を依頼するとともに、夏季休業前には、啓発リーフレットを市内中・高等学校の全生徒に対して約38,000部を配布した。</p> <p>R3の進捗状況としては、令和2年度と令和3年度では調査対象者が異なるものの、小・中学校共に目標値を達成した。</p>		<p>今後も他課や関係団体との連携を通して情報モラル教育の充実を図る。</p>			
スマートフォン等フィルタリングの設定率	インターネット利用等に関する調査(保護者、児童生徒に3年おきに調査)	小 92.3% (児童生徒)	86.8% (保護者)	95.0%	青少年課
		中 88.4% (児童生徒)	86.6% (保護者)	90.0%	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】		【今後の方向性】			
<p>市内小中学校の保護者に対して、インターネット利用に関する調査を実施するとともに、啓発リーフレット等の配布を通して、フィルタリングの設定を依頼した。</p> <p>R3の進捗状況としては、令和2年度と令和3年度では調査対象者が異なっているが、スマートフォン購入時にはフィルタリングの設定をするものの、購入後に解除する現状があるなど、前年実績を下回った。</p>		<p>購入時の設定に加え、購入後の設定が継続されるようリーフレット等を活用して協力を依頼する。</p>			

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等				
(2) 個性と能力を伸ばす教育の推進					
① 幼児教育の充実					
幼児期の教育の現状に対する満足度	教育に関する市民意識調査	50.0%	—	55.0%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指し、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた教育課程の改善・充実を図った。 なお、市民意識調査は5年に一度の調査のため、R3は実施していない。		【今後の方向性】 引き続き、幼・保・小連携研修会や幼・保・小連携代表者を開催し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を指導する。			
幼・小交流の実施校数（小学校）の割合	幼・小交流を実施した小学校数 ÷ 小学校数	96.2%	91.0%	100%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 市公立幼稚園保育研修会を1回開催し、特別支援教育に関する講話や生活科指導等の実技・演習を交えた研修を実施した。 R3の進捗状況としては、コロナ禍で十分な交流ができなかったことから、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 市公立幼稚園保育研究会を開催し、幼稚園・認定こども園・保育所の教育課程等について教職員の理解を深め、指導者としての資質の向上に努める。			
② 学習指導の充実					
全国学力・学習状況調査の平均正答率の全国との比較	全国学力・学習状況調査（国語、算数・数学）※全国平均を100とした本市との差	小6 +1.9	+3.9	+2	学校教育課
		中3 -0.1	+1.8	+1	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 児童生徒に必要な知識・技能を確実に習得させるとともに、ICT機器を活用した授業実践を推進して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育んだことから、R3は目標値を達成した。		【今後の方向性】 今後、さらに「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけた授業改善や指導方法の研修を行い、個に応じた指導や指導と評価が一体化する授業の推進に取り組む。			
1校当たりの指導主事等派遣を伴う校内研修の実施回数	年間の指導主事等派遣回数 ÷ 小・中学校数	9.3回	7.1回	10回	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 研究協力校を指定し、その研究成果を各学校への指導に波及させるとともに、小・中連携研修会や中学校学力向上プログラムを実施した。 R3の進捗状況としては、コロナ禍により講師を呼んでの校内研修が減少したことから、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 今後、ICT研修や各種教職員研修を適宜実施し、個に応じた学習習慣や基本的な生活習慣等について、各種研修会で具体的に指導する。			
③ 特別支援教育の充実					
1校当たりの巡回相談の回数	巡回相談の実施回数 ÷ 小・中学校数	1.3回	1.2回	1.3回	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 障害に関する専門的な知識・経験を有する特別支援学校の教員による巡回相談を通して、障害のある幼児児童生徒の指導・支援に関する教員等の一層の理解を深めた。 R3の進捗状況としては、コロナ禍により相談件数が減少したことから、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 今後も学校のニーズに応じた巡回相談を行い、引き続き教員等に対し障害のある幼児児童生徒の指導・支援に関する一層の理解を深める。			
保護者等の希望を踏まえ移行支援シート等を作成し、引継ぎをした中学校生徒の割合	進路先に引継ぎを行った数 ÷ 特別支援学級在籍生徒のうち引継ぎを希望した生徒数（通常の学級から特別支援学校へ進学した生徒も含む）	92.2%	89.2%	100%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 幼児児童生徒の状況やこれまでの支援について記録する「夢すこやかファイル」等の活用や引継ぎを推進する。 R3の進捗状況としては、通信制の進学先を選択している生徒もいるため、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 今後、引き続き「夢すこやかファイル」の活用を推進し、一人一人の教育的ニーズに合ったきめ細かな指導や支援体制について指導する。			

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課	
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等					
④教育の情報化の推進						
「授業でコンピュータなどのICTを「ほぼ毎日」使用した」と回答した児童生徒の割合の全国との比較	全国学力・学習状況調査	小6	—	-2.8	+2.0	学校ICT推進センター
		中3	—	-0.6	+2.0	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 ICT環境整備事業において、児童生徒用タブレット（小学校2,981台、中学校1,969台）を整備し1人1台端末の整備を完了するとともに、教育の情報化推進事業においては、ICT支援員を各学校へ派遣し、授業支援や研修等を行った。 R3の進捗状況としては、1人1台の端末台数の整備完了に伴い、今後、活用が徐々に進んでいくものと考えている。		【今後の方向性】 今後も引き続き、児童生徒が情報機器端末を日常的に活用していけるよう、ICT支援員等による支援や研修の充実を図る。				
児童生徒のICT活用を指導することができる教員の割合	学校における教育の情報化の実態等に関する調査	小	76.7% (R元)	75.7%	100%	学校ICT推進センター
		中	70.4% (R元)	68.7%	100%	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 教育の情報化推進事業において、ICT支援員を学校へ2人派遣し、授業支援や研修等を計167回行った。 R3の進捗状況としては、現況値が前年実績を下回った。これは、児童生徒の端末が1人1台となり、これまで行ってきたICT活用の内容がより高度なものになると感じた教員が増えた影響があったものと考えられる。		【今後の方向性】 今後、更に教員に対するICT支援員等による支援や研修の充実を図り、引き続き教育の情報化の推進に取り組む。				
⑤キャリア教育の充実						
「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合の全国との比較	全国学力・学習状況調査 ※全国平均を100とした本市との差	小6	+3.1	+3.9	+3.8	学校教育課
		中3	+2.0	+4.2	+3.4	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 キャリア教育の年間指導計画やキャリアパスポートの活用を通して望ましい職業観・勤労観を育成し、社会人・職業人としての基本的な資質・能力の向上を図り、R3は目標値を達成した。		【今後の方向性】 キャリア教育の全体計画や年間指導計画の作成について、継続的に研修会等を通して指導する。				
職場見学・職場体験学習を実施している学校の割合	学校アンケート	小	44.9%	34.2%	60.0%	学校教育課
		中	18.4%	12.8%	100%	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 家庭・地域との連携を強化し、地域人材、事業者等の協力を得ながら、職場見学・体験学習を推進を図った。 R3の進捗状況としては、コロナ禍により職場見学・職場体験学習を実施できなかったことから、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 引き続き、家庭・地域の連携を強化し、地域人材、事業者等の協力を得ながら、体験活動の推進に取り組む。				
⑥郷土教育の充実						
「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した児童生徒の割合の全国との比較	全国学力・学習状況調査	小6	+1.3	+0.1	+2.7	学校教育課
		中3	+2.8	-2.5	+6.0	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛し、これからの社会づくりに貢献できる人間の育成を目指した。 R3の進捗状況としては、コロナ禍により地域行事が減少したことから、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 今後、学校行事や授業等で、地域と学校がより連携して、地域に根ざした特色ある郷土教育に取り組む。				

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課	
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等					
地域と連携した郷土教育の実施校数の割合	地域と連携した郷土教育の実施校数÷小・中学校数	小	100%	100%	100%	学校教育課
		中	100%	100%	100%	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 校区の伝統・文化・歴史等を踏まえた郷土教育の全体計画を作成し、特色ある教育活動を推進を図り、R3は目標値を達成した。		【今後の方向性】 校区の伝統・文化・歴史等を踏まえ、より充実した郷土教育の全体計画の作成や伝承活動に関する発表に取り組む。				
⑦国際理解教育の充実						
「外国の人と友達になったり、外国のことをもっと知ったりしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合の全国との比較	全国学力・学習状況調査 ※全国平均を100とした本市との差	小6	+3.9	—	+5.4	学校教育課
		中3	+0.6	—	+1.8	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 外国の言語や文化、英語によるコミュニケーションに対する児童生徒の関心を高めるため、授業中、異文化交流のスピーチの練習をするなどして、伝え合うことができる力の育成を図った。 R3は、全国学力・学習状況調査に同質問項目がなかったため、現況値は出していない。		【今後の方向性】 ICTを活用し、外国の人々と交流する活動を充実させ、文化や価値の多様性への気付きや異文化の理解を深めるなど、児童生徒の国際的感覚の育成に取り組む。				
ALT・AEAの活用時数の達成率	小：AEAの総活用時数÷AEAの総活用規定時数 中：ALT活用目標達成校数÷中学校数	小	99.4%	99.1%	100%	学校教育課
		中	91.2%	76.8%	100%	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 市立小学校への英会話活動協力員（AEA）派遣に加え、市立中・高等学校へ外国語指導助手（ALT）を派遣し、英語コミュニケーション能力の向上を図った。 R3の進捗状況としては、コロナ禍によりALTが定数を満たしていなかったため、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 今後、市立小学校の外国語活動・外国語科等のチームティーチングや国際理解に関する学習への協力・補助等を行うために、ALTやAEAの計画的な派遣に取り組む。				
⑧環境教育の推進						
学校版環境ISO認定校の割合	学校版環境ISO認定校数÷小・中学校数	100%	100%	100%	学校教育課	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 教育活動全体を通じた環境教育を推進し、学校版環境ISO認定校としての取組が継続・発展するよう学校相互の情報交換の推進を図り、R3は目標値を達成した。		【今後の方向性】 今後、教育活動全体で省エネルギーやリサイクル活動などに取り組む学校版環境ISO認定校の認定更新に取り組む。				
出前授業の実施率	出前授業を実施した学校数÷小・中学校数	40.5%	47.4%	55.0%	学校教育課	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 環境局やかごしま環境未来館等の関係機関と連携した環境教育と「ゼロカーボンシティかごしま」など環境に関する出前授業の推進を図った。 R3の進捗状況としては、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 児童生徒の環境保全意識を高める必要があるため、引き続き、出前授業の利用に取り組む。				

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等				
⑨消費者教育の充実					
中・高等学校での講演会や出前講座参加者の満足度	講演会、出前講座後アンケート	97.6%	92%	100%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 関係機関と連携しながら消費者教育推進事業を通して各学校へ情報提供するとともに、学校へ弁護士等の講師を派遣し、教職員の指導力の向上を図った。 R3の進捗状況としては、コロナ禍により十分な対面式の講座ができなかったため、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 専門の講師による講演会や出前講座を実施し、消費者トラブルに巻き込まれないための資質・能力の育成に取り組む。			
消費者教育に係る講演会や出前講座の開催校数の割合	消費者教育に係る講演会や出前講座を開催した学校数÷小・中学校数	23.8%	33.3%	33.3%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 関係機関と連携しながら消費者教育推進事業を通して各学校へ情報提供するとともに、学校へ弁護士等の講師の派遣を行い、R3は目標値を達成した。		【今後の方向性】 専門の講師による講演会や出前講座を実施し、消費者トラブルに巻き込まれないための資質・能力を育成に取り組む。			
⑩主権者教育の充実					
「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した児童生徒の割合の全国との比較	全国学力・学習状況調査	小6 中3	-0.5 -4.1	-2.3 -4.4	±0 ±0 学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会の構成員の一員として社会を生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことができる力の育成を図った。 R3の進捗状況としては、コロナ禍により十分な地域交流に参加できなかったことから、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 今後も社会科の授業や特別活動等を通して、社会の構成員の一員として、社会の課題や問題を考えさせるなど地域の課題解決を主体的に担うことができる力の育成に取り組む。			
主権者教育の全体指導計画作成率	主権者教育の全体指導計画作成校数÷小・中学校	—	100%	100%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒や地域の実態等に応じた主権者教育の全体計画や指導計画を作成するよう指導し、R3は目標値を達成した。		【今後の方向性】 学習指導要領の趣旨を踏まえ、児童生徒や地域の実態等に応じた主権者教育の推進に取り組む。			
⑪市立高等学校の振興					
希望者の就職率	学校調査	100%	100%	100%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 年間を通して就職支援員が就職を支援し、社会的・職業的に自立できる生徒を育成を図り、R3は目標値を達成した。		【今後の方向性】 生徒の希望や適性に応じた就職を支援し、引き続き、就職支援員による生徒との面談を通して勤労観・職業観の育成に取り組む。			
1校当たりの一身体験入学への中学生の参加者数	市立高等学校への一身体験入学者数÷3	289人	220人	375人	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 多くの中学生や保護者に対して、市立高校が特色ある教育活動を展開していることを周知し、入学者の確保に努めたが、コロナ禍により体験入学への参加を控えた生徒が多かったことから、R3は前年実績を下回った。		【今後の方向性】 各学校の建学の精神や実態を踏まえ、多くの中学生や保護者に学校を知ってもらうなど、引き続き周知に取り組む。			
※なお、市立高等学校を指定して寄付する制度をR3年度からふるさと納税に設け、各高校の特色ある取組の財源として、49件150万円の寄付があった。					

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等				
⑫へき地・複式教育の充実					
集合学習や交流学習を実施した小学校数の割合	複式学級を有する小学校のうち、集合学習や交流学習を実施した学校数÷小学校数	100%	100%	100%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 各学校で集合学習や交流学習を実施するなど、ICT機器を活用して遠隔授業を推進し、他校との交流の機会の増加に向けて支援を図り、R3は目標値を達成した。		【今後の方向性】 集合学習や交流学習などICT機器を活用して他校との交流の機会の増加に取り組む。			
小学校複式学級指導法研修会の出席率	小学校複式学級指導法研修会に参加した複式学級担任数÷小学校複式学級を有する学校数	100%	100%	100%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 市小学校複式学級指導法研修会を年1回開催し、望ましい複式学級の指導法や学級経営の在り方について指導を行い、R3は目標値を達成した。		【今後の方向性】 今後さらにICT機器の活用や小人数による指導法についての研修等の推進に取り組む。			
(3) 体育・健康・安全の充実					
①学校体育の充実					
「運動やスポーツをすることが好き」と回答した児童生徒の割合の全国との比較	全国体力・運動能力、運動習慣等調査 ※全国平均を100とした本市との差	小5 ±0	+0.3	+0.5	保健体育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 校内研修会への指導主事の派遣(24回)や全校が参加する体育主任等研修会を通じて、「めあての提示」「課題を解決する活動」「振り返る活動」の3つのポイントを周知するなど、指導法改善に努めた。 R3の進捗状況としては、中学校が前年実績から低下しており、前年実績を下回ったものの、小・中ともに全国平均より高く、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 今後は、校内研修会への指導主事の派遣だけでなく、他校種教員の参加など、更に研究授業を活性化し、指導力の向上に取り組んでいく。			
全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力平均点の全国との比較	実施学年の体力合計点の平均値	小5 -1.5	-1.1	±0	保健体育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 小中高の体育主任を対象とした体力向上マネジメント講習会の実施や各学校の課題に応じた「ちょトレ運動」や「体力アップ!チャレンジかごしま」への取組を奨励し、運動習慣の確立と体力向上に取り組んだ。また、計画的に学校プール、遊具・体育施設、武道場等の補修及び整備を行った。 R3の進捗状況としては、目標の全国平均には届かないものの、平均との差が縮まっており、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 引き続き、体力向上や指導力向上につながる研修会を実施し、「ちょトレ運動」や「体力アップ!チャレンジかごしま」についても取組を推進していく。 また、体育施設整備事業など、体育施設の整備を年次的・計画的に行っていく。			
②健康教育・食育の充実					
むし歯のない生徒の割合(中1)	歯と口の健康に関する調査	62.6%	61.4	70.0%	保健体育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 学校における年間を通じた歯科保健指導や歯と口の衛生週間等において、密を避けた集団指導や個別指導を実施するなど、歯科保健指導に取り組み、歯と口の健康の推進を図った。 R3の進捗状況としては、コロナ禍により通常の保健指導が実施できないことなどにより、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 今後、さらに家庭や学校歯科医等と連携を図るとともに、先進校の事例を紹介するなど、引き続き歯と口の健康づくりの推進に取り組む。			

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等				
学校給食への地場産物の活用率	給食用食材に県内産の食材(肉・野菜等)を使用する割合(重量ベース)	63.8%	71.0%	70.0%	保健体育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 各学校・センターで献立に郷土食や行事食を取り入れたり、「鹿児島をまるごと味わう学校給食」週間を中心に地場産の旬の食材を学校給食に取り入れた。R3の進捗状況としては、目標値を達成した。		【今後の方向性】 今後も引き続き、学校給食への地場産物の活用に取り組む。			
③安全教育の充実					
小・中学生の校内でのけがの発生割合	日本スポーツ振興センターの申請件数	7.4%	7.9%	6.8%	保健体育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 セーフコミュニティ「学校の安全対策委員会」の取組を全小・中学校で実践した。また、小・中学校それぞれ共通実践事項を設定し、校内でのけがの減少に努めた。 前年度のR2は新型コロナウイルス感染症拡大防止による運動部活動の自粛等のため、けがの発生割合が減少していたが、R3は感染状況が好転した時期もあったことから、けがの発生割合もR元と同水準となったため、前年度に比べてけがの発生件数が増加しており、前年実績を上回った。		【今後の方向性】 けがの減少に向けた取組が充実している学校の実践例を積極的に紹介し、セーフコミュニティの取組を充実させ、校内でのけがの減少に努める。			
危険予知トレーニング(KYT)教材を活用した訓練実施校の割合	県学校安全活動調査	74.0%	72.7%	100%	保健体育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 管理職研修会(5回)及び安全指導担当者研修会(1回)において、危険予知トレーニング(KYT)教材を活用した安全指導を充実させるよう指導し、また、通学路の安全確保については、市通学路交通安全プログラムに基づき、道路管理者、警察、学校、教育委員会による通学路の合同点検(117箇所)を実施した。 R3の進捗状況としては、前年度に比べて活用割合が低下しており、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 身近な教材として活用できる「本市児童生徒の交通事故情報」や新聞情報などを各学校に積極的に紹介するとともに、管理職研修会等で危険予知トレーニングの実効的な活用について周知し、安全教育の充実にも努める。			
④防災教育の充実					
災害時に児童生徒の避難場所及び保護者への引き渡し等のルールを定めている学校の割合	学校における安全に関する実態調査(新規)	—	53.9%	100%	保健体育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 管理職研修会(6回)及び安全指導担当者研修会(1回)において、災害時の引き渡し等のルールを定めるよう指導した。また、危機管理課と災害時の適切な避難行動について情報交換を行った。 R3から実績評価を開始しており、今後目標達成に向けて取り組んでいく。		【今後の方向性】 引き続き、災害時の引き渡し等のルールづくりを推進するとともに、火山災害時の避難方法など市地域防災計画の避難行動について各学校に周知し、防災教育の充実にも努める。			
地域と連携して避難訓練を実施した小・中学校の割合	学校安全活動状況調査	62.5%	63.2%	70.0%	保健体育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 管理職研修会(3回)及び安全指導担当者研修会(1回)において、実効性のある避難訓練を実施するよう指導した。また、危機管理課と地域との連携方法及び避難場所について情報交換を行った。 R3の進捗状況としては、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 過去の被災経験講話や地域の施設を活用した避難体験学習、学校が避難所として活用される場合の連携など、地域を活用した避難訓練及び防災教育を一層推進する。			

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等				
(4) 地域とともにある学校づくりと教育環境の充実					
①学校運営の充実					
学校運営協議会の活動状況等を知っている保護者の割合	学校評価（保護者対象）の調査「知っている」と回答した数 ÷ 全回答数	20.1%	32.1%	80.0%	学務課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 学校運営協議会を設置している6校において、年4回の協議会を開催し、地域や保護者からの意見や要望を教育課程に位置付けることができ、地域とともにある学校づくりを推進することができた。 R3の進捗状況としては、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 R4は、設置数を12か所増やし、全体で19校18か所で活動を行う。R5から全ての市立学校に設置し、地域とともにある学校づくりを推進する。 学校運営協議会の活動状況をPTA等で紹介するとともに、学校だよりやホームページ等で積極的に発信する。			
業務改善が進んでいると実感している教職員の割合	フォローアップ調査	70.0%	69.9%	90.0%	学務課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 定時退庁日の設定や校時表の見直し、ICT機器の活用など「鹿児島市立学校の業務改善アクションプラン」に基づき業務改善に取り組み、時間外勤務時間が縮減するなど、ある程度の成果を上げることができた。 R3の進捗状況としては、学校における新型コロナウイルス感染症対策を負担に感じる教職員もいたことから、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 R4から全ての学校の電話に自動音声応答装置を設置した。 「鹿児島市立学校の業務改善アクションプラン」を更に推進するとともに、業務改善推進委員会等を設置するなどして教職員一人一人が自覚を高め、学校全体で取り組める体制を構築し、実感できる取組を推進する。			
②教育課程の改善・充実					
「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程の編成、実施、評価、改善を図るPDCAサイクルを確立している」とする学校の割合の全国との比較	全国学力・学習状況調査	小 -0.7	±0	+3.3	学校教育課
		中 -6.2	+1.1	±0	
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 多様な学習の進め方を自ら調整していくことができる教育課程の編成について研修会で指導に努めた。 R3の進捗状況としては、管理職研修会等での指導により改善はしており、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 今後は、他校の教育過程を相互に参考できる体制を構築し、教務主任等研修会等で紹介することで、教育課程編成の充実を図る。			
小学校でのスタートカリキュラムの作成の割合	スタートカリキュラムを作成している小学校数 ÷ 小学校数	100%	100%	100%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 内容や進め方が異なる幼児期と児童期の教育過程の円滑な接続を目指し、スタートカリキュラムの改善・充実を図り、R3は目標値を達成した。		【今後の方向性】 保育参観や保育研修、講演会等の実施を通して、引き続きスタートカリキュラムの改善充実を図った。			
③教職員の資質向上					
各種研修会における参加者の満足度	研修後アンケート	98.2%	—	100%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 教職員研修の内容の充実、精選、効率化を図り、教職員に求められる資質能力の向上を図った。 R3は、一部の実施により実績数値は出していない。		【今後の方向性】 今後も、教職員の課題やニーズに合った教育講演会や教職員研修を設定するなどし、教職員の資質向上の推進に取り組む。			

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等				
中学校教科別研修会参加率	教科別研修会に参加した教職員数 ÷ 市内中学校教職員数	—	—	50.0%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 中学校教職員が自信をもって教育活動に専念し、資質能力を向上させられるよう研修会等の開催を図った。 R3は、一部のみの実施により実績数値は出していない。		【今後の方向性】 今後、さらに各教科担当校と連携を図り、研修のねらいと目的を明確にし、実践的指導力を高める研修の充実に取り組む。			
④教育施設の整備・充実					
学校のトイレの洋式化率	児童生徒が使用するトイレの洋式便器数 ÷ 校舎、屋内運動場等の全便器数	53.8%	58.2%	78.6%	施設課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 キラリ☆学校トイレ洋式化推進事業において、トイレ改修工事や修繕・業務委託にて約300器の便器の洋式化を行い、推進を図った。 R3の進捗状況としては、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 目標値である78.6%を目指して、引き続き洋式化の推進に取り組む。			
特別教室等の空調設備更新率	空調更新室数 ÷ H4～17年度に空調を設置した特別教室等の室数	45.6%	52.8%	100%	施設課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 クーラー設置・更新事業において、改修工事を行い、8校の特別教室等の空調設備を更新した。 R3の進捗状況としては、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 空調設備の更新を進めるだけでなく、空調設備を設置する教室の拡充に取り組む。			
⑤教育費の負担軽減					
本市奨学資金貸付制度の貸与基準を満たす希望者のうち奨学資金の貸与を認められた者の割合	奨学資金の貸与を認められた人数 ÷ 本市奨学資金貸付制度の貸与基準を満たす希望者数	100%	100%	100%	管理部総務課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 R3年度は、2回（6月、9月）の募集を行い21人からの申請があり、21人へ貸与を決定した。（辞退等があり、貸与実績は19人） R3の進捗状況としては、貸与基準を満たす希望者へは全員へ貸与しており、目標値を達成した。		【今後の方向性】 今後も引き続き、奨学資金貸付制度の円滑な運用のため、より効果的な滞納対策の推進に取り組む、財源の確保を図る。			
市民のひろばによる就学援助周知回数	市民のひろばの掲載回数	2回	2回	2回	管理部総務課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 就学援助事業において、年度当初分および新入学生用品費の入学前支給の申請時期に市民のひろばへ申請案内を掲載し、制度の周知を図った。 R3の進捗状況としては、目標値を達成した。		【今後の方向性】 今後、学校との連携を更に緊密にし、引き続き支援に取り組む。			
⑥学校の規模適正化・適正配置					
学校の規模適正化について、一定の方針が定まった事例数	検討対象校のうち、意見交換会等を通じて、学校の規模適正化を図る手立て等の方針が定まった事例数	0事例	1事例	2事例	学校整備室
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 よりよい教育環境づくり推進事業において、桜島地域での説明会（4回）などを開催し、桜島地域8小中学校の統合による学校規模適正化の推進を図った。 R3の進捗状況としては、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 今後、さらに対象となる学校や地域コミュニティ協議会と連携を図り、地域の意見聴取に努め、引き続き学校規模適正化の推進に取り組む。			

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等				
学級数の増減により新たに学校の規模適正化を検討する範囲に入った学校の管理職に基本方針を説明し、地域の実態を聴取した割合	学校の管理職に基本方針を説明し、地域の実態を聴取した学校数÷新たに学校の規模適正化を検討する範囲に入った学校数	100%	0%	100%	学校整備室
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 よりよい教育環境づくり推進事業において、新たに学校規模適正化を検討する範囲に入った学校は2校あるが、R3は、コロナ禍により学校訪問を自粛したことなどにより、学校の管理職への基本方針説明を実施できなかったことから、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 今後、さらに対象となる学校や地域コミュニティ協議会と連携を図り、地域の意見聴取に努め、引き続き学校規模適正化の推進に取り組む。			
⑦私立学校等との連携					
県私立中学校高等学校協会及び県教育委員会、鹿児島大学教育学部附属中学校との情報交換会の開催率	情報交換会の開催回数÷情報交換会の計画数	100%	100%	100%	学校教育課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 鹿児島玉龍中学校の入学者選抜実施日等について、県私学協会や関係学校と情報交換会を開催するなど情報交換の推進を図り、R3は目標値を達成した。		【今後の方向性】 今後さらに入学者選抜実施日、学校説明会の日程等について情報交換会で日程調整に取り組み、遺漏の無いようにする。			
(5) 家庭や地域の教育力の向上と生涯学習環境の充実					
①家庭教育の充実					
子育てやしつけが安心してできる環境が「十分にできている」「ある程度できている」と思う市民の割合	教育に関する市民意識調査	70.4%	—	80.0%	生涯学習課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 家庭教育相談事業として、市内の学校に通学する児童・生徒及び保護者等が、学習、人間関係、子育て等、家庭教育に関する悩みについて、気軽に相談できる窓口を生涯学習プラザ及び各地域公民館に設置し、必要に応じた支援等を行った。 地域別家庭教育研究会は、新型コロナウイルス感染症の影響により、14地域公民館中4つの地域公民館で実施した。 なお、市民意識調査は5年に一度の調査のため、R3は実施していない。		【今後の方向性】 相談窓口の周知・広報を充実させ、家庭教育相談事業の推進を図りたい。地域別家庭教育研究大会は、感染対策を十分に行い、全ての公民館で実施する。			
家庭教育学級の参加者数	—	6,069人	10,251人	25,000人	生涯学習課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 社会学級の開設事業において、社会学級委員等研修会（後期）の開催（参加者202人）や講師謝金の補助（活用率29.5%）など、家庭教育学級の運営支援に取り組む、健全な子どもの育成や親としての資質向上を図った。 R3の進捗状況としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、学級の中止や規模縮小があったが、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 今後、オンライン開催などの多様な運営・学習方法の充実を図り、引き続き健全な子どもの育成や親としての資質向上に取り組む。			
②生涯学習活動の充実					
「生涯学習をしている」と回答した市民の割合	教育に関する市民意識調査	43.1%	—	50.0%	生涯学習課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 生涯学習プラザや地域公民館等で、市民のニーズを踏まえながら、趣味・教養や文化芸術、またICT等の今日的課題に関する講座を開催し、市民の主体的な学びを推進している。 新型コロナウイルス感染症の影響により、中止とした講座もあった。 なお、市民意識調査は5年に一度の調査のため、R3は実施していない。		【今後の方向性】 市民のニーズを踏まえた講座に加え、今日的課題も含めた講座を開設し、その周知に努めることで学習機会の充実を図る。また、地域公民館図書室ではおはなし会等を開催し、読書活動を推進する。			

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等				
成人学級等の参加者数	—	13,421人	12,455人	34,000人	生涯学習課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 社会学級の開設事業において、社会学級委員等研修会（後期）の開催（参加者202人）や講師謝金の補助（活用率47.4%）など、成人学級等の運営支援に取り組み、社会の変化に対応できる能力や豊かな社会生活に必要な教養の向上の推進を図った。 R3の進捗状況としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、学級の中止や規模縮小があったため、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 今後、地域の核となる若い世代のリーダー育成を図ったり、オンライン開催などの多様な運営・学習方法の充実を図ったりするなど、引き続き社会の変化に対応できる能力や豊かな社会生活に必要な教養の向上の推進に取り組む。			
③学習成果の活用					
学習や活動をした成果を生かしている（生かせると思う）市民の割合	教育に関する市民意識調査	89.7%	—	93.0%	生涯学習課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 公民館講座等を受講した修了生の中には、自主的に学習を継続している方もいた。また、自主学習グループで活動を継続している方が講師になり、初心者向け講座を開設していた。 新型コロナウイルス感染症の影響や高齢化が進む中、自主学習グループの数や人数が減少傾向にあった。 なお、市民意識調査は5年に一度の調査のため、R3は実施していない。		【今後の方向性】 主体的に学習に関わる姿勢を大切に、学習成果を幅広く活用できる機会への参加を促したい。			
学校支援ボランティアの活動者数	—	46,000人	42,000人	54,000人	生涯学習課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 学校支援ボランティア事業において、多様化する学校のニーズを把握するとともに、そのニーズに対応する地域人材の発掘を行い、学校支援の推進を図った。 R3の進捗状況としては、新型コロナウイルス感染症の影響で学校からの依頼及びボランティア参加者が減少したことにより、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 今後も多様化する学校のニーズに応じた専門的な知識をもった人材や新規登録者を確保するために、地域と連携を図りながら、事業の更なる周知広報に努める。 また、感染症対策を確実にし、安心安全に事業が行えるように努める。			
④生涯学習推進体制の充実					
地域のリーダーを養成する講座受講者の満足度	R2：女性リーダー、シニアリーダー研修会等 R3～：学び広げる地域リーダー養成研修会	93.0%	98.0%	100%	生涯学習課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 学び広げる地域リーダー養成研修会を開催し講演や事業の説明などを行い、参加者は83人であった。 R3の進捗状況としては、講演会の内容も充実していたため、参加者の満足度も98%と好評であり、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 コロナ禍での活動意欲を高めることを目的として、内容を検討し計画していく。また、講演会や分科会等を行い意見交換をするなどについても検討していく。			
協働講座での連携団体数	—	17団体	12団体	22団体	生涯学習課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 協働講座において、12団体12講座が登録し、生涯学習に関する様々な講座を行った。 R3の進捗状況としては、連携団体の中には、コロナ禍で参加者を見込めないため、活動を中止したり、自粛したりした団体があったため、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 状況を見ながら、感染対策を万全にした状態で活動ができるよう団体に呼び掛けていく。 参加者の確保に向けて、「市民のひろば」などを通じて広報していく。			

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等				
⑤生涯学習機能の充実					
地域公民館や図書館などの生涯学習関連施設の利用者数	—	1,412,000人	1,424,607人	2,120,000人	生涯学習課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 生涯学習関連施設において、市民の学習や交流の場、地域づくりにつながる活動の場となるように、利用者がそれぞれの目的に応じて学習できる環境づくりに努めた。 R3の進捗状況としては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための休館や利用者制限、また、利用を控える市民もいたが、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 感染対策を十分にいき、安心して利用できる環境づくりに努める。また、様々な立場の利用者のニーズに対応した施設の整備の推進に取り組む。			
「生涯を通じて興味・関心のあることを学ぶ環境が整っている」と感じる市民の割合	第六次鹿児島市総合計画に係る市民意識アンケート調査	28.3%	—	41.0%	生涯学習課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 生涯学習プラザや地域公民館、図書館等が、利用者の目的に応じて学習できるような環境づくりに努めるとともに、市民へ地域の生涯学習施設の広報を行った。 なお、第六次鹿児島市総合計画に係る市民意識アンケート調査は5年に一度の調査のため、R3は実施していない。		【今後の方向性】 生涯学習施設のWi-Fi環境の整備など、ICTを活用して市民サービスの向上を図っていく。			
⑥学習情報の提供、相談機能の充実					
図書館のレファレンス件数	質問に対して本や情報を提供した件数	1,638件	3,390件	4,000件	図書館
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 図書館のレファレンスサービスにおいて、利用者の質問に対して本や情報の提供(3,390件)を行うなど、市民の課題解決支援に取り組み、サービスの充実を図った。 R3の進捗状況としては、目標値に向けて順調に推移している。 ※前年実績(R2)及び現況値(R3)は市立図書館で提供した件数 目標値(R8)は市立図書館及び天文館図書館で提供した件数		【今後の方向性】 今後、インターネット等の活用や、レファレンス事例・パスファインダー等のデータベース化を進めるとともに、天文館図書館や関係機関と連携を図り、さらなるサービスの充実に向けて努めていく。			
生涯学習情報システム(キュートピア・ネット)のアクセス数	—	441,071件	472,316件	486,000件	生涯学習課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 市民のひろばにプラザ講座等の申込方法としてキュートピアネットを周知したことで、キュートピアネット利用者の利便性の向上を図った。 R3の進捗状況としては、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 引き続き、市民のひろばを通じて、キュートピアネットの申し込みについて周知を行う。			
(6) 文化芸術の振興と歴史・文化資源の保存と活用					
①文化芸術に触れ親しむ機会の充実と活動の促進					
美術館の入館者数	—	78,940人	89,588人	150,000人	美術館
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 取組内容としては、常設展と市民公募展(18,005人)のほか、特別企画展は西洋近代絵画「スイス・パル美術展」(8,306人)と現代美術「フロム・ジ・エッジ」(4,091人)を開催、また貸館による展示(59,186人)を行った。 R3の進捗状況としては、特別企画展で観覧者が最も多い8～9月に、まん延防止等重点措置により企画展等を中止したにもかかわらずR2から1万人以上増加しており、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 引き続き、常設展、小企画展、特別企画展を開催していくが、従来の企画に加えて、若い世代にアピールできる現代美術展も開催していく。			

教育施策の方向性		前年実績 (R2)	現況値 (R3)	目標値 (R8)	所管課
計画期間における成果指標	指標の概要、算式等				
美術講座、美術講演会等の参加者数	—	198人	274人	500人	美術館
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 取組内容としては、学芸講座(6回166人)、美術講座等(3回30人)、美術講演会等(2回61人)、施設見学(1回17人)を、感染対策を考慮し定員を減らす人数制限をかけながら開催した。 R3の進捗状況としては、新型コロナまん延への対応のため講座を6回中止したにもかかわらず、R2から76人増加しており、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 引き続き、美術講座、講演会等を開催していくが、従来の企画に加えて、新館長の講座を開設する等、新しい企画も加えていく。			
②文化施設の活用及び文化芸術情報の発信					
美術館ホームページの閲覧件数	—	202,000件	206,303件	300,000件	美術館
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 ホームページには、館からのお知らせ、常設展・小企画展と特別企画展の内容のほか、館の概要、歴史、所蔵品の紹介、展覧会スケジュール、販売図録(通販あり)、イベント講座案内、おうちミュージアム等を掲載している。このほか、英語、中国語(簡体、繁体)、韓国語で館の概要を紹介したページも設けている。 R3の進捗状況としては、206,303件と、R2年度実績から4,000件以上増加しており、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 引き続き、館からのお知らせや展覧会情報等を掲載していくが、SNS(twitter、Facebook、instagram等)の投稿に館のホームページへ誘導するリンクを貼るなど周知に努めていく。			
美術、工芸、文芸などの創作活動への参加、創作品の鑑賞に関心がある市民の割合	教育に関する市民意識調査	58.6%	—	70.0%	美術館
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 市立美術館は、所蔵品の常設展・小企画展のほか特別企画展を実施し、かごしま文化工芸村は、陶芸や木工芸等の関連講座のほか秋まつりを実施した。実績(カッコ内は2年度)として、市立美術館は、観覧者数89,588人(78,940人)、美術講座等参加者数274人(198人)、かごしま文化工芸村は、利用者・見学者等数18,606人(21,514人)、講座参加決定者数643人(576人)、秋まつり参加者数155人(220人)となった。 なお、市民意識調査は5年に一度の調査のため、R3は実施していない。		【今後の方向性】 アンケートや審議会等の意見を参考に、より利用者の興味を引き、参加しやすい内容の企画を研究しながら、引き続き各種展覧会や講座等を実施していく。			
③文化財の保存の充実と積極的な活用					
市内の文化財の指定等件数	市内に所在する文化財の国指定・県指定・市指定・国登録件数	193件	192件	195件	文化財課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 安藤照作 西郷隆盛銅像と清泉寺跡の、市の文化財指定に向けた専門調査と文化財審議会への諮問を行った。 R3の進捗状況としては、県の指定文化財が2件追加され、国の登録有形文化財が3件登録抹消となったため、前年実績を下回った。		【今後の方向性】 今後も、指定に向けての調査を行い、指定件数を増やしていきたい。			
異人館の年間入館者数	—	5,404人	10,133人	33,000人	文化財課
【R3の具体的な取組内容と施策の進捗状況】 異人館の周辺地の整備が令和3年5月に完成したことに伴い、整備した施設を活用し、綿花の収穫や機織り体験、近隣施設と連携したイベントなどを6件実施した。 R3の進捗状況としては、目標値に向けて順調に推移している。		【今後の方向性】 今後、関係機関や地元と連携し、積極的にイベントの実施や情報発信を行い、引き続き、多くの人々に訪れていただけるような取組を行ってきたい。			

Ⅳ 参考資料

教育委員会活動の自己点検・評価実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が事務の管理及び執行の状況について自ら実施する点検及び評価に関し、必要な事項を定めるものとする。

(評価の基本的なあり方)

第2条 教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、的確にその施策効果を把握し、その目的又は目標に照らして、必要性、有効性、効率性、公平性の観点その他当該施策の特性に応じて必要な観点から点検及び評価を行い、その評価の結果を当該施策に適切に反映させるものとする。

2 教育委員会は、前項の規定に基づく点検及び評価の実施に当たっては、客観的な実施の確保を図るため、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用する。

3 前項に規定する学識経験を有する者の知見の活用を図るため、教育行政評価会議を設置するものとし、必要な事項は別に定める。

(評価の基本的な事項)

第3条 教育委員会は、点検及び評価の実施に当たり、次に掲げる事項を協議し決定する。

- (1) 点検及び評価の対象に関すること。
- (2) 点検及び評価の実施方法に関すること。
- (3) 点検及び評価の対応方針等の決定（以下「結果」という。）に関すること。
- (4) 点検及び評価の結果の施策への反映に関すること。
- (5) 点検及び評価の結果の公表に関すること。
- (6) その他点検及び評価の実施に関し必要なこと。

(報告書の作成及び公表)

第4条 教育委員会は、点検及び評価を行ったときは、その結果に関する報告書を作成するものとする。

2 教育委員会は、前項の規定により作成した報告書を市議会に提出するとともに、公表するものとする。

(市民の意見及びその反映等)

第5条 教育委員会は、公表した報告書について市民から意見があった場合には、施策又は点検及び評価に適切に反映させるように努めるものとする。

(点検及び評価の改善の検討)

第6条 教育委員会は、毎年度、点検及び評価のあり方について検証を行い、その課題を把握し、鹿児島市の行政評価の動向も参考としながら、その改善について検討を行う。

(委任)

第7条 この要綱に規定するもののほか、点検及び評価の実施に関し必要な事項は、別に定める。

付 則

この要綱は、平成20年5月22日から施行する。

付 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

教育行政評価会議設置要領

(趣旨)

第1条 教育委員会活動の自己点検・評価実施要綱（平成20年5月22日制定）第2条第3項に規定する教育行政評価会議（以下「評価会議」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 評価会議は、教育委員会の求めに応じて、次の各号に掲げる事項について意見を述べるものとする。

- (1) 教育委員会の点検及び評価の方法に関すること。
- (2) 教育委員会の担当課が実施した点検及び評価の一次評価に関すること。
- (3) その他教育委員会の点検及び評価に関し必要と認めること。

(組織)

第3条 評価会議は、5名以内の委員で組織する。

- 2 委員は、教育に関し識見を有する者のうちから、教育委員会が委嘱する。
- 3 評価会議に会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年以内とする。ただし、委員が欠けた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は、再任されることができる。

(会長の職務)

第5条 会長は、評価会議の会務を総理し、評価会議を代表する。

- 2 会長が欠けたとき、又は会長に事故があるときは、あらかじめ会長が指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 会議は、会長が招集する。

- 2 会議は、委員の過半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 会長は、会議の議長となり、議事を整理する。
- 4 会長は、必要があると認めたときは、関係職員その他会長が適当と認める者を会議に出席させ、関係事項について説明させ、又は意見を述べさせることができる。

(庶務)

第7条 評価会議の庶務は、教育委員会事務局管理部総務課において処理する。

(委任)

第8条 この要領に規定するもののほか、評価会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

付 則

この要領は、平成20年5月22日から施行する。

付 則

この要領は、平成26年6月3日から施行する。